

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街では年配層向けの商品を増やしている。また客も増えており、単価的にも若干良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・高いものは売れないが、適当な安い物は出ている。天気のいい日は客の動きが多くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新しい客も含め客足が徐々に増えつつある。
		商店街（代表者）	単価の動き	・三種の神器と言われる一部の家電製品等単価の高いものに人気が出ている。景気の変動が見られるのは一部の業種に限られるが、それでも景気の上昇が多少感じられる。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・入店客数は前年実績を上回っている。また、購買数料、購買客数についても前年比104～5%である。購買率も上昇しており、基礎的な部分を見る数字については若干良くなっている。部門別では身の回り品と食料品、雑貨の動きが良い。衣料品は前年を若干下回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数が前年比101.2%と上がっている。食料品、住関連は昨年を上回っているが、衣料品が厳しく、夏物衣料に期待するしかない。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・数年前からの新店及び店舗改装に伴い店舗の運営レベルも向上し、お客様からの支持も拡大した結果、リピート率も向上した。この効果もあって、4月からの総額表示に対するお客様の購買マインドの低下も防ぐことができています。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・客数が増え、客の表情も明るくなった。買物する姿も以前と比べ活気があり、明るい方向に進んでいる。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・前月の同期比較で量販店の売上は0.4%増、コンビニは同2.9%増、全体では同0.9%増となり、徐々に上向き傾向にある。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の様子としては、春になったこと、好天であることに加え、プロパーの時期ではあるが何かを買いたいという雰囲気来店する。安いものはもちろん、高いものも買う人が少し増えたような気がしている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・薄型テレビ、大型冷蔵庫の動きが良くなってきた。
		その他専門店 【医薬品】（従業員）	来客数の動き	・ドラッグストア間の競争は相変わらず厳しいが、客数は増加傾向にある。
		その他専門店 【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・ガソリンの仕入価格は3、4月と値上がりしており、小売価格に反映させているが、極端にセルフサービス店に流れることもなく、フルサービスの販売は変わらない。
		その他小売【雑貨卸】（総務担当）	それ以外	・売上は伸びていないが、利益は若干取れるようになった。良い方向に向かいつつある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は歓送迎会以外にも客の予約が入り、やや良くなった。例年に比べると今年は団体の歓送迎会もいくつかあった。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線の開業効果で人の流れが増えている。しかし、県外の客を対象にする事業所は良くなっているが、通常の市内の客だけを対象とする商売は大した動きがない。	
	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・宴会需要が予想よりも若干増えている。いい方向に向かっている。	
	その他飲食【居酒屋】（店長）	お客様の様子	・九州新幹線の一部開通で県外客の流れが変わってきた。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・外的要因もほとんどなく、旅行全体としては回復しており、ゴールデンウィークの予約も順調である。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・客の乗り込み回数が良くなっている。特に夜の繁華街では遠距離の客が増えた。客全体の動きに活気がある。	

	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設の来客数は前年比約30%増である。ゴルフ場も前年比10%以上の増となっている。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・若年者がだんだん増えてきた。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・九州新幹線が開通し、来客数が1割程度伸びた。主に福岡、北九州、山口からの来場者が多くなり、上向きである。
	競輪場（職員）	販売量の動き	・発売金が下げ止まっている。
	美容室（店長）	お客様の様子	・最近入学式で着物を着る人が減っていたが、今年は若干多くなった。お宮参りも同様である。気分的に余裕が出てきたのではないかな。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・大型分譲地が相次いで販売されており、動きがみられる。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・近隣に百貨店ができて客の流れが変化し、商店街への流入が減少した。政府、マスコミでは景気が少し上向きということであるが、我々にはまだほど遠い。
	商店街（組合職員）	来客数の動き	・商店街に隣接する駐車場の駐車数が少しずつ減少している。1時間駐車無料券を出しても、商店街は非常に厳しい。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・前月同様、高額商品の売行きが悪く、安売品の単品購入が目立っている。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・客足が伸びない。また客足のむらが大い。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・お得意様の来店頻度が減少しており、まとめ買いがみられない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・九州新幹線開通効果、物産催事、子供関連大型催事、全店DM催事の開催により来店客数は下げ止まったが、特に婦人服、食品を中心に買上単価が伸び悩んでいる。一方、下旬のビッグブランドショップのオープンでは、連日行列ができ、順調に推移している。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・3月の福岡・天神地区は、前半こそ近隣の百貨店の新店がオープンし、一定の盛り上がりを見せたが、結果として天神地区全体の売上は大きくは伸びなかった。4月もこの傾向は続いており、前年並み、もしくは前年比減で推移している。
	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客数は変わらないが、客単価が下落している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・景気全体としてはやや明るめであるが、業界内では競合が激化し、単価の下落が顕著になっている。BSEや鳥インフルエンザの問題も影響している。
	スーパー（店長）	単価の動き	・総額表示導入により、特に食品において、値段が高いというイメージがついた。競合店を始め、総額表示で元の値段に合わせるという方針を取っている。青果の単価も下がっている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・買上の量も増えていないし、週末にまとめ買いをする様子もない。週末になると売上が2～3%減少している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・総額表示の影響で来店客数が減少している。
	スーパー（店長）	単価の動き	・相変わらず客数は前年を上回っているが、一品単価の回復が望めない。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・全体的には、来場数は若干減少であるが、買上率が非常に厳しい。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・酒類販売新規店舗に関して2～3か月経過したが、依然売上の上昇に結び付いていない。客単価の上昇につながっていない。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・ヤングの来店客数は前年を上回っているが、ミセス、中年は前年比減である。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価の下落が著しい。	
家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・薄型テレビ等の高級品は売れているが、それ以外の物に変化はなく、全体では前年並みである。	
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・店頭来客数の減少。単価が大幅に下がっている。	
乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・来客数、単価の動きはさほど変わっていないが、やはり商談に行き着くまでの時間がかなり長い。特に高額商品の購入に関しては慎重である。	

		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・月末に来店客数が増えたが、身の回り品の購入が多く、単価が伸びない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・法人による一般宴会等の件数・単価がともに低迷する傾向にある。
		旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・海外旅行は、テロ、SARSで壊滅的であった前年は上回っているが、02年度の数値には戻っていない。ゴールデンウィークの日並びが昨年より良いため、国内旅行は前年を上回っている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量は維持しているが、販売奨励金などが競合他社とともに高騰していて、販促コストをかけないと売れなくなっている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・若干の価格ダウンはあったが、依然として高値販売が続き、機種取替え需要が昨年より減少している。
		競馬場（職員）	単価の動き	・来客数の減少に加え、購買単価が相変わらず低い。
やや悪くなっている		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・物産展等の大型催事の来店客数は増えているが、催場以外、目的以外の物は全く買わないという傾向がますます強まっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・春休み以降、平日だけでなく特に土日の街場への動員が少ない。ゴールデンウィーク前も大幅増には至らなかった。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・総額表示により、値ごろ感がなく、客の買物動向が変化している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・客数が減っていないため消費支出自体はそう悪くはないようだが、総額表示に移行してからは確実に売上高が減少している。デフレに加え、企業間の競争も激化し、利益をおびやかしかねない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・最も売上が高いのは、福岡市の繁華街にある店舗であり、客の中心は繁華街に勤める従業員である。しかし、最近飲食店の客が少ないため、早く閉店し従業員も早く帰っている。そうすると、時間があるため少し足を伸ばして24時間営業のスーパーで購入するようになり、コンビニエンスストアへの来客が減少している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・郊外店が立地したことにより、中心部の人が少なくなっている。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・当店の入っている大型商業施設の近くに、相次いで別の大型量販店がオープンしたため、確実に商圏が狭まり、客数が減少した。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・客の会話からは、「ボーナスが出るかどうか分からないので月払にしたい、金利手数料を払ってもやむを得ない。」という話が聞かれる。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・春のブライダル商品の動きが相変わらず悪く、客単価も下がっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3か月前、前年と比べても、宿泊・宴会・レストランのすべての部門で売上が減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー利用客は昼夜とも減っているが、外食する人が増えている。	
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・見積案件が非常に少ない。ある場合も、受注するまでに時間がかかる。	
悪くなっている		一般小売店〔青果〕（店長）	来客数の動き	・オーバーストア気味で、客が散らばっている。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・天神地区の来客が今月落ちている。自社の閉館・開店、競合店のリモデル等で大幅に天神地区の集客力は上がり、小売業・飲食業も多少は潤っていたが、今月に入りそれも一巡した。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・相変わらず来客数は少なく、売上も前年の50%に満たない。
企業動向関連	良くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注がさらに増えている。
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月に入っても年度末の需要の余波が残っており、受注状況は比較的活発である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先等の状況から判断すると、少しずつ上向いている。景気としては上向きの方で進んでいる。
		鉄鋼業（経営者）	取引先の様子	・原材料、副資材価格が高騰し、メーカーは製品価格を引き上げざるを得ない。値上げした価格が徐々に需要家に浸透している。

	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は多くなっているが、価格は大変厳しい。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連では、大手企業は非常に動きが活発になっている。部門によっては二極化しているが、全体的には良い方向に向かっている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新規の仕事が確実に増えている。また、複数の取引先から仕事の照会があり、好況感を持っている。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・焼酎メーカーの動きが活発で、販売量は前年比120%で動いている。また、小売店の棚から、芋焼酎だけでなく麦まで消えるのではないかという勢いで、消費者が買い込んでいます。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・忙しく仕事をしている方が多く、以前のように仕事が少なくて暇であるという声をほとんど聞かなくなった。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	取引先の様子	・取引金融機関の融資態度が、業績回復を受けて積極的になってきた。スタンスの転換を明言するところも一部にある。	
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響で、販売量が前年比30%減である。本来なら春先の行楽シーズン、移動時期も重なって消費拡大するところであるが、本当に厳しい。	
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係は低価格志向が強くなり、需要回復には至っていない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・一般の百貨店、量販店の流通業者は、以前に比べ大分落ち込んでいる。その他の小売店や外食産業あたりの状態は以前とあまり変わらない。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・貸出の減少が続いている。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新聞折込広告の折込枚数は先月と変わらないが、業種による格差が広がり始めた。百貨店等の大型店は好調だが、不動産、衣料品販売等が低調である。すべての業種で好調とはいかない。	
やや悪くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・鋼材の値上がりにより、材料、部品、設備等がすべて値上がりしている。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事請負件数はそこそこの水準であるが、受注金額が低く、売上が伸びない。	
悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・ピーマンの価格が前年比60～65%であり、大幅赤字である。	
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・今までは周辺企業の倒産が多かったが、ほとんどなくなり、少しずつ息づいている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・景況感の好転に伴い、自社の求人誌を含め求人情報の掲載数が上向き傾向にある。雇用形態で見るとパート・アルバイトが特に増加している。正社員採用はインターネットからの応募が中心となっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が着実に伸びている。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年4月は派遣社員の需要が伸びる月であるが、普通の月と変わらない。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・正社員のみで派遣社員の受入れに関心なかった企業が、社員の補充に派遣を検討する等、派遣社員に関する問い合わせが前年比20%ほど増加している。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月に入り、派遣社員の求人数が横ばいである。ゴールデンウィーク明けの仕事量も少ない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・ライバルの大手求人誌がシェアを拡大していることから、マーケットそのものは広がっている。しかし、それが景気の拡大に直結しているかどうかは判断できない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・景気回復が言われているが、企業の宣伝広告活動はまだまだ消極的だ。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・底を打った感じはするが、いまだ回復基調にはない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・就職者数は上がってきているものの、新規求人が前年に比べ少ない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は増加しているが、臨時の求人が目立っており、景気についてはどちらとも言えない。	

	職業安定所（職員） 学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き 雇用形態の様子	・請負、派遣社員の求人の割合が高まっており、労働者の所得の増加は期待できない。 ・雇用形態は、相変わらずパート採用に移行気味である。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-